

城南総合研究所 調査報告書No.21

小泉純一郎、細川護熙両元首相が 新潟県内にある日本初の商業用メガソーラーを視察！

2015年6月15日（月）、城南総合研究所の名誉所長である小泉純一郎元首相と一般社団法人自然エネルギー推進会議代表理事の細川護熙元首相が、東日本大震災前の2010年8月から新潟県と昭和シェル石油株式会社が共同で運用している、日本初の商業用太陽光発電施設「新潟雪国型メガソーラー発電所」を視察しました。

本報告書では、視察に先立って行われた泉田裕彦新潟県知事との懇談や新潟雪国型メガソーラー発電所視察の様子、視察後に行った記者会見についてご紹介します。

＜小泉純一郎、細川護熙両元首相が新潟県の泉田裕彦知事を「激励」訪問＞

小泉純一郎、細川護熙両元首相が泉田裕彦新潟県知事と懇談しました。懇談では、東京電力(株)が福島第一原発事故の原因究明をしっかりとしないまま、新潟県にある柏崎刈羽原発の再稼働を進めていることについて、「東電はしっかりと原因を究明し、情報を開示すべきである」「安全対策や避難経路の確保等が不十分なので、再稼働を急ぐのはおかしい」等の意見交換が行われました。

また、泉田知事からは、2007年の新潟県中越沖地震で柏崎刈羽原発の変圧器で火災が発生した際も、東京電力(株)に原発の安全対策を求め、その結果、柏崎刈羽原発や福島第一原発に免震重要棟がつけられたというエピソードについて話されました。



<日本初の商業用太陽光発電施設「新潟雪国型メガソーラー発電所」を視察>

今回視察した「新潟雪国型メガソーラー発電所」は、2009年9月に日本初の商業用メガソーラー発電所の実現を目指す新潟県が実施した公募に対して、昭和シェル石油株式会社が応募し、その内容が採択されて、2010年8月31日から運用を開始しました。同発電所で発電した電気は、東北電力の電線に送電されており、近隣地域で使用する電力の一部となっています。

また、同発電所に隣接している防災・エネルギー研修センターは、新潟県次世代エネルギーパークに認定されており、子どもから大人まで見学することができます。これまでに9,000名を超える方々が見学に訪れました。

<「新潟雪国型メガソーラー」の特徴>

①地上1mの高さから太陽電池パネルを設置

雪対策のため太陽電池パネルを地上1mの高さに設置しています。

②CIS太陽電池を採用

CIS太陽電池とは、シリコンを使わない次世代型の薄膜系太陽電池です。一般的な結晶シリコン系の太陽電池と比べて、影による影響が少なく、幅広い波長の光の成分を吸収することができるため、冬期に曇り空の多い新潟県においても、安定した発電ができます。

また、パネルフレームを加工することで、雪が落ちやすいように工夫されています。

③太陽電池パネルの傾斜角度を20°と30°にて設置

太陽電池パネルの傾斜角度を20°と30°の2種類で設置しています。雪の滑落の観点では30°が適していますが、傾斜角度の違いによる発電量への影響はほとんどありません。

この他の特徴としては、架台に使用する材料を少なくするデザインを採用したり、環境保全に配慮し、架台建設においては建設残土を排出しない鋼管杭工法を採用しています。

以上の特徴を活かしながら、同発電所は、全国的にも日照時間が短い新潟県において、順調に発電を行っており、計画対比でも、2014年度は119%、2015年は5月末現在で117%の発電量となっています。



<「新潟雪国型メガソーラー発電所」視察後の記者会見の様子>

「新潟雪国型メガソーラー発電所」視察後には、集まった多くの報道陣を前に、小泉純一郎、細川護熙両元首相による記者会見が行われました。

— 新潟雪国型メガソーラーを視察した感想は —

小泉元首相：「新潟で最初のメガソーラーということを知り、細川元首相と一緒に、新潟県の泉田知事を激励がてら視察しようということで（今回の視察が）実現しました。（雪国型メガソーラーは）福島第一原子力発電所の事故前から取組んでおり、大したものだと思います。国が支援とか奨励すれば、20%、30%の供給力（電源構成に占める自然エネルギーの比率）が実現できると実感しました」

細川元首相：「今まで雪国型でないものはいくつか見ているが、初めて雪国型を見せてもらい、なるほどなと勉強になりました。ここが先駆けとなって新潟県内、それから北国の方でも、ソーラーパネルが増えてきていますが、もっともっと増えていって、今の話のように、20%が30%、40%と、それくらいに国のかじ取り次第でうまくいくのではないかと思います、国がしっかりしてもらいたいと思いました」

— 今後自然エネルギーをどのように推進していきたいか —

小泉元首相：「福島の事故以降、国民全体が自然エネルギーを拡大していこうという気持ちが強いと思います。日本はわずかだからできないよと原発必要論者は言っていますが、必要論者も2年間も原発なしでやっていけるとは思っていなかったと思いますよ。日本は、もっと国が支援すれば、太陽光なり風力なり、さまざまな自然エネルギーが豊富ですから。今、ドイツ、スペイン、デンマークは30%に近づいており、日本も30%の電源というのはそんなに困難じゃない。50年、100年かからないだろう。むしろ20年、30年で自然エネルギーを30%にして、今までの原発の供給力は十分にカバーできるのではないかと感じています」

細川元首相：「農業をやっている方々が畑の上に太陽光パネルを設置することができるようになれば、大変な広がりになると思います。もちろん、いろいろな規制を考えなければならないですが、そういうことができれば、いくらでも広げる余地があると思います。今日の太陽光パネルとは直接関係ないが、今私たちの自然エネルギー推進会議では、特に水力の取組みを一生懸命にやっています。全国から水車を利用した発電についての問い合わせがあり、また私たちも実際に現地に行って、いくつもの自治体からぜひこれから進めていきたいという話をいただいています。私たちもできる限りサポートさせてもらっています。その他の自然エネルギーについても、できる限りこれから少しでも広がるようにやっていきたいと思います」

— 泉田知事との懇談内容について —

小泉元首相：「今後自然エネルギーはもっと普及させていくし、東電はもっと情報を開示しないとおかしいと。（泉田知事は）さすが、経産省出身ですから、内部事情も詳しいです。もっと情報を出して、安全対策をしっかりとやってくれと。まだまだ安全対策は不十分なところがたくさんあることをじかに聞きました。再稼働するにしても事故の検証ができていないと。産業廃棄物の会社は、処分場がなければ知事が許可しない。産業廃棄物の会社が自分で処

分場を見つけないと許可されないのに、原発の核のゴミは産業廃棄物よりもはるかに毒性が高いにも関わらずその処分場がないのにどうして許可するのか。それ1つとってもおかしい。皆さんもおかしいと思わないですか。マスコミの皆さんもこういうことをぜんぜん報道しないのはおかしいと思わないか」

— 自治体を原発で縛っている電源3法を見直すなどしないと地域で自然エネルギーは普及しない。手詰まり感がある中で、このような局面を2人でどのように打開していくのか —

小泉元首相：「細川さんと私の2人でやっているわけではない。国民に向かって国民運動をしているのです。国民が立ち上がれば、日本は民主主義の国家なので、必ず原発ゼロでやっていける。今は自民党も選挙の公約を忘れてしまって、原発の依存度をできるだけ低減させ、自然エネルギーをできるだけ拡大していくと言ったのを忘れたのか、原発を維持して、自然エネルギーを伸ばすのを経産省と阻止している。おかしいね」



— 再生可能エネルギーで地域を含め経済成長を成し遂げる代案を出すのも必要ではないか —

小泉元首相：「それは政治が決めれば、日本国の英知が結集しますよ。1人や2人で代案を出すほど、狭い問題ではない。実に大きな問題だ。政府が、最終処分場を今決めると言っているが、決められると思うか。再稼働して、ゴミをどんどん増やして、未だにゴミの処分場がない。増やす中で政府が決めて処分場が見つかるという発想は、無責任で楽観的すぎると思います」

— 新潟県には柏崎刈羽原発があり、再稼働に向けて安全審査が進んでいるが、事故を起こした東京電力が再稼働を目指していること、審査が原発を再稼働させようという風に動いていることについてどう考えているか —

細川元首相：「とんでもない。それにつきる」

小泉元首相：「あきれています。どうかしているのではないのかと。これだけの事故を起こしておいて未だに事故の原因がわからない。処分場も見つからない。再稼働すれば、核のゴミは増える。こういう中で安全対策も十分でない。どれをとっても再稼働の発想をしていくのがおかしい。不思議でしょうがない。理解に苦しんでいる」

— 泉田知事と再稼働についてどのような話を —

小泉元首相：「東電から十分に説明がないと言っていましたね。情報をもっと開示すべきだとも。安全対策にしても、避難路の確保1つにしても、地元の意見を良く聞かなければいけないはずだと」

— 泉田知事は東電への不満は言うが、具体的に再稼働について反対、賛成の立場を明らかにしておらず、県民もかなり不安に思っている面もあり、知事の対応についてどう思うか —

小泉元首相：「それは、泉田知事は原発について詳しいからね。本当に再稼働して大丈夫なのかという再稼働の前段の説明がないと言っていた。まだ情報提供はなされていないし、相談もないし。判断する前段階であると。そういう話でしたね」

記者会見の様子は城南信用金庫のホームページ (<http://www.jsbank.co.jp>) からご覧いただけます。